

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大楠3丁目計画 新築工事	階数	地上4F
建設地	福岡県福岡市南区大楠三丁目267番	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	11人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年5月10日
敷地面積	312 m <sup>2</sup>	作成者	上岡 祐介
建築面積	211 m <sup>2</sup>	確認日	2024年5月20日
延床面積	763 m <sup>2</sup>	確認者	上岡 祐介



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.0

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	天神大牟田線高宮駅から徒歩8分ほどの第二種住居地域に位置する共同住宅であり、周囲には同じ様な高さの建築物が並んでいる。	
その他	特に無し	
Q1 室内環境	居室の快適性を保つため、昼光率が高くなる設計になっている。化学汚染物質による空気汚染を回避するよう努めている。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	建物が良い状態をより長く維持できるような外壁仕上げ材や内装仕上げ材を採用している。	Q3 室外環境 (敷地内)
Q3 室外環境 (敷地内)	限られた敷地内で緑化をなるべく増やすように努めている。また、周囲からの景観が良好になるように配慮した設計となっている。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	建築外皮の熱負荷抑制や、設備システムの高効率化をすることで微力ながら地球温暖化抑制の取り組みを行っている。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	資源・マテリアル消費の低減のために環境に優しい材料を使用している。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	敷地内から漏れる光が敷地外に悪影響を及ぼさないように取り組みされている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版**  
**(仮称)大橋3丁目計画 新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40		-	<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>						<b>4.5</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.4</b>
1.1 室内騒音レベル		共用部:40<騒音レベル≤45 住戸:35<騒音レベル≤40				<b>4.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.50	
1.2 遮音		ガラスサッシの遮音性能はT-2である				<b>5.0</b>	0.50	<b>2.4</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		-				5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-				-	-	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-				-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-				-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音		-				-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>1.0</b>	0.35	<b>2.3</b>	1.00	<b>2.0</b>
2.1 室温制御		-				<b>1.0</b>	0.71	<b>2.5</b>	0.50	
1 室温		-				-	-	1.0	0.63	
2 外皮性能		等級4を超える水準の断熱性能を満たしている				1.0	1.00	5.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		-				-	-	-	-	
2.2 湿度制御		除湿機能を有し、熱橋となる部分の断熱補強をしている				<b>1.0</b>	0.29	<b>4.0</b>	0.20	
2.3 空調方式		-				-	-	1.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.9</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.4</b>
3.1 屋光利用		過半を超える住戸で屋光率が2.0%以上である				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.4</b>	0.30	
1 屋光率		-				-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口		-				-	-	1.0	0.30	
3 屋光利用設備		-				<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策		-				<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 屋光制御		-				1.0	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度		-				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御		タイマー・センサーで自動照明抑制がされている				<b>5.0</b>	0.25	<b>5.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.0</b>	0.25	<b>3.9</b>	1.00	<b>3.9</b>
4.1 発生源対策		建材はF☆☆☆☆を使用				<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		-				4.0	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気		レベル按分4.6				-	-	<b>3.8</b>	0.38	
1 換気量		-				-	-	3.0	0.50	
2 自然換気性能		-				-	-	4.6	0.50	
3 取り入れ外気への配慮		-				-	-	-	-	
4.3 運用管理		-				-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-				-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-				-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.8</b>	0.40	<b>4.6</b>	1.00	<b>4.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ		各住戸Gbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境が整備されて				<b>1.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		-				-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-				-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		-				1.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		内観パースにより事前検証をしている				<b>5.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観		-				-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-				-	-	-	-	
3 内装計画		-				5.0	1.00	<b>5.0</b>	0.50	
1.3 維持管理		-				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-				3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		-				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		コンクリート打ち放し:65年、タイル貼:40年				<b>3.7</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		床:木質直貼フローリング20年、壁:ビニールクロス貼20年				5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-				4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要用途上位3種の2種以上にBを使用しEは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-				2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		-				<b>2.2</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-				3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		-				2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		-				1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		-				2.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.6</b>	0.30	<b>2.4</b>	1.00	<b>2.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>1.8</b>	0.50	
1 階高のゆとり	-		-	-	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	-		-	-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>	-		-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.6</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		1.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	-		<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	-		<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	UA値0.6以下		<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>	-		<b>2.0</b>	0.10	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	BEIが0.85以下である		<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.5</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	「かしこい住まい方ガイド」などパンフレットを利用して説明		4.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水	-		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.6</b>	0.60	-	-	<b>3.6</b>
2.1 材料使用量の削減	-		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	リサイクル材を3品目使用している		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS+PBで容易に分別可能		5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.20	-	-	<b>4.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料を4種使用している		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	発泡剤ODP=0かつGWP=1以下の断熱材を使用する。		5.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO2排出率90%		<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
2.1 大気汚染防止	-		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-		2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの一部を満たしている		5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	4.0	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○		-	-		○	○	○		○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-				○	-	○		-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	-		-	-	-	-	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	2.0	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		2.0	-	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0		-	-	-	-	1.0	-	-	2.0	2.0				
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	-	1.0	-	-	-	2.0	3.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		1.0	-	-	-	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 2.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 30.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.5 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 25 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.2 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 26% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 33% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 8% 舗装面積率 24%
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> - 断熱等性能等級 等級4を超える 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.79 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 グラン敷石ランダム、躯体材料の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 0
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 184% 隣棟間隔指標Rw 0.35 地表面対策面積率 8.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb ㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 0 m 基準高さHb 0 m 緑地 27㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡